



# 第2回 伊坂 建紀

## 油彩展 「祈り」



2015.10/8(木)～10/13(火)

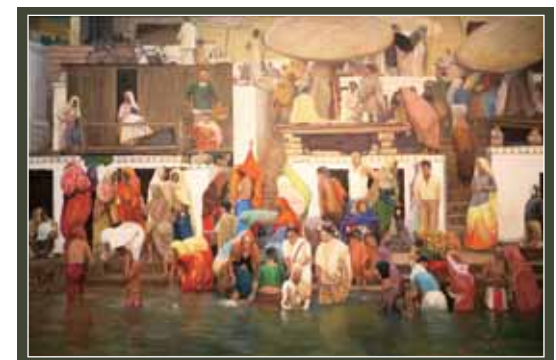
\*画像・イラスト等の保存・無断使用・転載・二次利用は禁止します\*



霧の長城



瞑目  
タイの祈り



祈りの河  
ガンジス河・ベナレス

「祈り」それは世界に共通するものであり、宗教の垣根を越えて誰もが実現を願うために捧げるもの。

「祈り」とは、人がそれぞれ抱くものであり、それは宗教の垣根を越え、神や太陽・山・木・岩・河などの自然に対して自身の繁栄や、他者の幸せ、豊作などを願う科学が広まる前より最も古く、「祈り」は人が誕生して常に寄り添うものでもあります。では、人はなぜ祈るのでしょうか。「祈り」の表裏には「恐れ」というものがあり、これもまた祈りと同じく常に存在するものでもあります。現代の日本では、様々な恵まれた環境などからか、宗教の概念が他国よりも薄いと云われ、儀式の認知度も同じく少ない様にも思えます。しかし、そういった背景があるからこそ、他国の伝統である儀式を目前にすると日本とは違う文化や色彩の美しさに心奪われるのかもしれない。ここで展示会の様子を見ていくと伊坂建紀さんの作品は柔らかなタッチでありながらも写実的に描かれていいます。様々な場面での自然を描き、切り取られた日常には人だけではなく何かしらの「祈り」(願い)が存在しているのかもしれない。木々の願い、動物の願い、人々の願い…それらは形にならぬ見えない願いや想いを想像して作品をみると、また違った作品にも見え楽しむことが出来ます。



起請  
雲南の祈り



果物屋さん



幻惑  
ジャワの祈り